

日刊 警城時報

編輯 石城郡平野町屋敷四十四
印刷 石城郡平野町屋敷四十四
發行 石城郡平野町屋敷四十四
印刷 石城郡平野町屋敷四十四
廣告 石城郡平野町屋敷四十四

日本刀を揮つて
妻子四名を殺傷
平窪村中農の若主人
自分は咽喉と腹を斬る

平窪村大字中窪字高儘農業者小のらうと雨戸を押し開けて始
野高義(三二)は十三日午前二時三十分頃、その場所を見、驚いて腰を
頭突然家裏の刃渡り二尺八寸の抜かした處に近所の人々が集り
日本刀を持ち出し就寝中の妻キヤその背平器に刺し出でた。平野
ク(二八)の咽喉部に刺りつけたから午前七時伊藤司法主任、青
上胸部を突き通して殺害し、同田刑事部長以下係官数名現場に
蚊帳の中に寝てゐた長男儀平出張、平窪村長からは三等検事
(一〇)の咽喉部を斬りつけ、瀕死も書記を随へて急行し現場に於
の重傷を負はせ、今度は長女キ
キ(五)二男助秋(二)の兩名
も同様に滅多斬りとして惨殺し
一家四人全部を殺傷した。高義
は死人の間に座つて血に塗れた被害者キヤ(二八)二男助秋(二)
日本刀で自分の咽喉と腹部を横ツ長女キヤ(五)の三名は即
一文字に掻き斬り自殺を計つて死したものを、既に絶命して
虫の息となつてゐるのを午前六時、儀平(一〇)は目下虫の
時頃懸居屋に寝起きしてゐた高義で生命危殆となり、加害者高義
義の質母さだ(六)が、秋篠をも重傷であるが、生命は取止め
飼育してゐるのに何故起きないらしいと。

三名は死亡
一名は危篤

加害者小野高義は本年三月頃かたが、發狂してゐるとは言へ平
ら多少精神に異常を呈し四月に素は危険な言動もなく人を殺す
日光華殿瀧で自殺する旨を書きこいたが如き事は想像されな
置いて家出した事あり、親戚のつが、突然發作的の精神異常
人々が捜索に行つて連れ戻してから今回の慘劇を演ずるに至つ
以來家人が監視中のものであつたものらしいと見られてゐる。

加害者は三月頃から
精神の異常者

「急報に接して現場に行つて見
たら全部見事に死んでゐる殺
されるまで抵抗したやうな形
跡が更になく、まるで合意の
親子心中らしい場面であつた
現場を見た平警察署員は交々語
る。
「急報に接して現場に行つて見
たら全部見事に死んでゐる殺
されるまで抵抗したやうな形
跡が更になく、まるで合意の
親子心中らしい場面であつた
現場を見た平警察署員は交々語
る。」

生活に困らぬ
原因が判らない

「息子は先達から少し気が違
つてゐましたが、まさかこん
な大事件を起こさうとは思ひ
もなかつた。まさかお夢にも
思つてゐませんでした。平素
夫婦の仲もよき氣遣ひといは言
ひながら子供を叱るやうな事も
なし何のためこんな事をした
のか判りません、現在では田
畑は他に貸して小作をさせて
ゐますが、小作料だけで生活
に困るやうな事もない筈だが
生活上の問題からでは絶対
にないと思つてゐます。こん
な事になるならいつその事四
月に日光に行つた際死んでく
れた方がよかつたさへ思ひ
ます。云々」

合意の心中
らしい死に方

「急報に接して現場に行つて見
たら全部見事に死んでゐる殺
されるまで抵抗したやうな形
跡が更になく、まるで合意の
親子心中らしい場面であつた
現場を見た平警察署員は交々語
る。
「急報に接して現場に行つて見
たら全部見事に死んでゐる殺
されるまで抵抗したやうな形
跡が更になく、まるで合意の
親子心中らしい場面であつた
現場を見た平警察署員は交々語
る。」

七月中の
木炭製炭高

平窪村炭製炭組合七月中の出
産三郡木炭同業組合七月中の出
炭検査数は合計十萬一千百五
十六俵で内詳左の如し。
▲石城四萬八千七百三十一俵

平警察署移轉方を
縣參事會員に陳情

平警察署は平野町通りの繁華
な場所あり、個所は内郷、
湯本、好間、赤井、小川、平窪
方面の交叉点にあり而も道
路が狹隘であるのに乗合自動車
の通行頻繁で三分間に一臺
割合で危険此上もないので平
警察署を何れへか適當の場所へ
移轉しやうとする計劃が傳へら
れる。

今秋平町に開く
自治展覽會

石城郡町村長會は十四日午前九
時から平野町石城郡役所に開き
御大典奉祝方法、同紀念事業計
劃、石城郡統計協會設立の件、
自治展覽會開催の件、其他事務
指導の事項について協議打合せ
をなす筈であるが、右のうち自
治展覽會は今秋御大典を紀念に
平町に開くもので當地方として
今日まで嘗て開催された事がな
く展覽するものは各町村史、自
治制史、明治戊辰以前の帳簿、
書類等各町村十以上を出品す
る方針である。

村を追はる
外山生

（その十四）
序ながらいさし、見たま、
の村の教育を介紹して見やう
やることそれ自体が教育的に
なれば程價値つけられるのは勿
論批判の限りではない。
昭和二年の春晩、麗かな某日
の村の學校に農事の講演會が催
ふされて列席すべき彼れが會
の始まる前の暫らくの間、時
恰かも、開會中の職員會を傍
聴するの機会と光榮を得た。

清野女史が
百圓寄附

平野町南平産婆看護婦學校々主
清野キヨ子女史の夫清野儀重氏
は十二日午後八時腦溢血によつ
て死去した。葬儀は十四日午後
に於て佛式により菅野寺である
尚ほ清野キヨ子女史は亡夫の遺
志により平消防組に百圓を寄
附した。

大藏省預金部
運用課長來平

大藏省預金部上野運用課長は屬
長等主催で十四日午後六時から
谷口樓に於て歓迎會を行ふ事
になった。
▲平町水道部江名信用組合
▲小名領、江名漁業組合▲小
名濱住宅組合
印刷物は、加納活版所

縣參事會
歓迎會

縣參事會一行十名は十四日平
町に來り平警察署、警城中學校
三時自宅出棺平町長橋町性源寺
に於て佛式により菅野寺である
尚ほ清野キヨ子女史は亡夫の遺
志により平消防組に百圓を寄
附した。

自治展覽會
協賛

自治展覽會開催の件、其他事務
指導の事項について協議打合せ
をなす筈であるが、右のうち自
治展覽會は今秋御大典を紀念に
平町に開くもので當地方として
今日まで嘗て開催された事がな
く展覽するものは各町村史、自
治制史、明治戊辰以前の帳簿、
書類等各町村十以上を出品す
る方針である。

紺屋町 青年團總會

平町紺屋町青年團總會は十日午後六時から扇屋に開き天満宮祭典に關する報告の後定時總會に移り一般會計の報告並に御大典紀念積立金について會計織田氏の報告あり新入團者天下政氏を紹介した後分團長關内喜久次郎副分團長高野清一兩氏が滿期退團する旨を報告し役員改選に移るや馬目雅治氏が、今年御大典、縣社子齋倉神社祭典等あり重大時なるを以て役員改選を保留して欲しいと動議を提出しその通り決定、會川氏の祝辭あり最後に天満宮祭典費の剰余金で御大典奉祝幕を購入する件を決議した。

驚いた!!!

こうまで安いとは
平・加納活版所の印刷物

信夫郡有志

信夫郡有志五名は石城郡内農事狀況視察のため十三日來郡、鈴木技手の案内で磐前村下船尾農事實行組合實行狀況並に泉村志賀澤之助氏の農園、同村河部養鶴所を視察し勿來方面に赴いた

今朝 白銀の火事

平町白銀町三十二番地橋本豊太郎(六三)方から十三日午前八時頃發火したのを附近の塚金太郎(二七)が發見大事に至らなかつた。原因は炊事場の殘火であつた。

平町魚市場 株式募集廣告

一、申込期間 八月二十日限り
一、第一回拂込金 一株二十圓五十錢

株式會社平魚市場

發起人總代 加納五郎

申込取扱所及拂込個所

平町平銀行 磐越銀行

創立事務所

平町五丁目二十一番地



美味にして強壯の効著大
スポンイン
本舖 信夫郡信夫町
平野邊 山
平町五丁目
野邊藥局

セメント 磐城セメント株式會社

壁用材料

コールタール 代理店 西村屋藥舖

ペンキ塗料

板ガラス 平町二丁目 電話三番

家傳 神皇散

(一週間金壹圓)
◎血ノ道◎産前、産後◎難産、流産ノくせ◎古血、惡血ノ滯
◎子宮、寸白、腰、腹、冷◎男女頭痛、目眩、立眩ミ
◎上述◎腦神經不眠症ニ大効ヲ奏ス。
代理店 平町 水野藥局

お買上券一枚進呈
高級洋食 毎一品
洋式宴会仕出し
一等三本本
二等五本本
三等十本本
四等三十本
五等三十本
平町田町(電話一六七)

社會奉仕
百毒下し 一萬金膏 半額
回効散 一六神丸 半額
猫イラズ 一、字津救命丸
太田胃散 一、字津救命丸
ヨチユムチンキ 一、字津救命丸
三割引
貧困者無料
平町田町

外科新設
内臓外科 專門部長 藤本順
一般外科 部長 藤本順
平町新川町
木村婦人科醫院
院長 木村寅次郎
電話一六四番

滋養、強壯劑として愈々好評
偉大なる藥酒「粟守酒」
朝の一盃は精力の根原、晩の一盃は睡眠の助力
粟守酒特約店 大平屋藥店
代價八日分壹圓九十錢 平町一丁目(電話一三三)

農藝用消毒殺虫藥品の御用は
養蠶用寒暖計
平町五丁目角 山野邊藥局

夫儀重儀永々病氣中の處十一日午後八時死去仕り候此段辱知各位に謹告仕候
追而葬儀は十四日午後三時自宅出棺平町長橋町性源寺に於て執行仕る可く候
八月十二日

喪主 清野重雄
親戚 井野重次
酒井秀次
伊藤戸長
伊藤藤三
猪木辰三
鈴鹿木森
友人 大木三
總代 勇郎
代 清久
代 市郎

本校々主清野儀重儀永々病氣中の處十一日午後八時死去仕り候此段辱知各位に謹告仕候
八月十二日

私立平産婆學校
看護婦 學校

本校々主清野儀重儀永々病氣中の處十一日午後八時死去仕り候此段辱知各位に謹告仕候
八月十二日

私立平産婆學校同窓會
看護婦 學校